

夜明け前

2010年アドベント第2週

2010/12/5

ヨハネ福音書1章1～14節

- 「言葉」と訳されている語は、原語では「ロゴス」である
 - 「ロゴス」とは万物の起源・原理を意味する
- ヨハネは受肉以前（人となる前の）キリストを「ロゴス」と呼んだ
 - 「ハジマリニ カシコイモノ ゴザル、
コノカシコイモノ ゴクラクトモニ ゴザル、
コノカシコイモノワ ゴクラク。」〈ギュツラフ訳〉

受肉前のキリスト

- キリストは神であった(ある)
 - 「初めに」とは時間の始まる前, という意味
 - 「神と共にあった」とは三位一体の神として存在したと理解できる
- キリストは創造主であった
 - 「万物は言によって成った」
- キリストは光であり, 命であった
 - 万物を存在させ, 生かす源であった

この世は闇である

- 「闇」とは神の光を失った状態
- 闇の中にいるので、知ることも理解することもできない
 - 自分の姿も、進むべき道も分からない
- 命の光が届かないので、死に向かっている
 - 新たな命が必要である
- 罪は光を避け、光を受け入れない
 - あからさまになることを拒む

ロゴスは人となられた

- 全人類の罪を背負って死ぬため
 - 創造主自らが責任を取られる
- 新しい命を与えるため
 - 「この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。」<13>
- 新しい命を生きる最初のアダムとなるため
- 人類を自らの弟子として再生するため

暗闇に光

暗闇に光 かがやきのぼる

そのきよい光 神の栄光

主はここに おられる 今ここに おられる

暗闇を照らす まことの光

真理のみことば 神の栄光

主はここに おられる 今ここに おられる